

# 提供から見た錢貨の呪力

榮原永遠男

The Magical Power of Coins from the Perspective of Their Provision  
SAKAHARA Towao

はじめに

- ① ハツホとしての錢貨—貞觀永宝の場合
- ② 新錢の奉納・賜給
- ③ 錢貨Ⅱハツホの根拠
- ④ 錢貨の呪力と神仏むすび

## 【論文要旨】

六国史に見える錢貨を他者に提供する行為を分析すると、王権や国家などの提供者と錢貨との関係が見えてくる。貞觀永宝の新鑄錢が、ハツホとして鑄錢所近くの神に奉納された点に注目して、他の錢貨の場合を検討すると、新鑄錢をハツホとして神に奉納することが重視されていたことがうかがえる。

和銅顯出の詔、陸奥産金の詔勅、大宝産金の記事によると、貴重な金属は天皇の統治する国土に存在するものであり、その出現は、天神地祇や天皇霊が天皇の国土統治の正当性を保証したことを示すものであった。錢貨は、かかる貴重な金属から作られたものであるために大地が産み出したものと認識され、その故にハツホと意識された。ハツホとしての新鑄錢を、天皇が神々へ奉納することは、自らの国土統治の正当性を神々に確認する意味が込められていることになる。また、皇族・臣下に対する賜与

はハツホの分与であり、皇族・臣下に天皇の国土統治を確認させる意味があった。

延喜式と六国史における錢貨提供記事を全体的に見ると、錢貨を神祇関係の祭祀料として用いる事例は少なくはない。神祇関係の錢貨奉納については先に述べたが、仏教関係の錢貨の提供では、王権と仏をつなぐ物として錢貨が機能しているが、それは錢貨の呪力が媒介になっていない。

日本においては、錢貨が大地の産物と認識されていた点は重要である。日本における錢貨の呪力の根源は、この点から理解すべきである。錢貨は、大地の産み出したものであるが故に呪力があると認識されたのである。

【キーワード】ハツホとしての錢貨、鑄錢司、貴金属の産出、天皇の国土統治、錢貨の呪力